

拝啓 建築主殿

こんな富士見坂に

わたしたちは富士山を見続けたい

日暮里富士見坂は都心で唯一、

地面に立ったまま富士山を望むことのできる「富士見坂」です。

その富士山の姿が、

不忍通り千駄木三丁目建設中の賃貸マンション

(設計・施工、生和コーポレーション)

によって消えてしまいます。

伝統的な眺望は「文化遺産」と表明する、

ユネスコの諮問機関イコモス(国際記念物遺跡会議)は、

日暮里富士見坂からの富士山への眺望は守られるべきであると決議し、

『イコモス勧告』を関係者に通達しました。

勧告を受けた荒川区・文京区は、

日暮里富士見坂からの眺望の保全と、次世代への継承に賛同し、

建築主及び設計施工会社に眺望への配慮を要請していません。

しかし、建設工事は始まり、止まりません。

「日暮里富士見坂を守る会」は、十二年前より活動をはじめ、

眺望線上の地権者への理解を求めてきました。

今回も眺望が保全される設計への変更を提案し、話し合いの場を持ちたい

と何度も申し入れています。

しかし、その機会はいまだ得られておりません。

お願いです。この風景を守ってください。

敬具

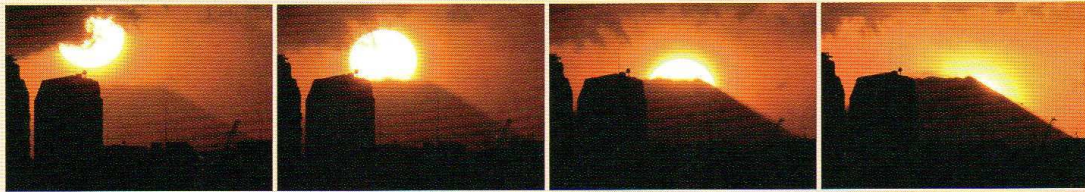


しないで下さい!

おねがいです!~

文京区からの要請により、
表紙3段落3行目後段の文
「眺望への配慮を要請していません。」を
「眺望への配慮をお願いしております。」
に修正します。

わたしたちは富士山を見続けたい



ダイヤモンド富士とは
太陽が富士の頂に沈むときの輝きをいいます。
稜線を転がるように落ちる太陽と、
日没後にくっきりと浮かぶ富士のシルエット。
その美しさをぜひごらんください。
日暮里富士見坂では、
1月下旬(29日~31日頃)と
11月中旬(11日~13日頃)の年に2回、
富士山の頂に太陽が沈むの
見ることができます。

日暮里富士見坂のダイヤモンド富士(撮影:2011.1.30 / 石川 正)

日暮里とは、江戸中期の寛延(1748-50)のころ、新堀村の名に、景色がすばらしく「日の暮るも忘れて遊ぶ里」、日暮里の字を当てたことに始まります。その新堀村と谷中の総鎮守である諏方神社は創建八百年を超えました。

富士信仰が盛んだった江戸時代、富士を望みながら花を愛でる花見のルートがありました。それが今も残る上野から谷中、日暮里、田端、飛鳥山に抜ける尾根道です。その尾根が一番狭くなるのが日暮里富士見坂の上あたりです。「東に筑波、西に富士」の望める風景は、町に住む人たちの自慢でした。筑波山もまた関東の名山です。

明治・大正・昭和・平成となった2000年春まで、日暮里富士見坂は坂上に立ち、富士山が完全に見える都心で唯一の富士見坂でした。そして2012年現在も、山頂と右稜線を望める、唯一の富士見坂なのです。

ふたたび富士山の全貌を眺めたい。「日暮里富士見坂を守る会」の願いです。



年2回のダイヤモンド富士の時には多くの人で坂が埋まる(撮影:同上)

日暮里富士見坂を守る会
<http://fujimizaka.yanesen.org/>

fujimizaka@yanesen.com
〒116-0013 東京都荒川区西日暮里3-2-5 (金子方)

発行:2001年11月/改訂7版:2012年10月